

# キラリ☆ 中野のチカラ

夢さち信州中野  
つるしかざりの会 の皆さん



子どもたちの成長願う  
色とりどりのつるしかざり

中山晋平記念館には、「雨降りお月」や「故郷」など中山晋平先生や高野辰之博士の童謡唱歌をテーマにした、「つるしかざり」が展示されています。

今回は、このつるしかざりを作っている「夢さち信州中野つるしかざりの会」の皆さんにお話を聞きました。

### ○つるしかざりとは

桃の節句や端午の節句に子どもの健やかな成長を願って、着物地などで一針一針丁寧に作った縁起物のひなをひもに吊るす伝統工芸の一種で、福岡県柳川市、静岡県伊豆町稲取地区、山形県酒田市などが有名です。

### ○活動の内容

最初は、小山早智子<sup>こやま さとこ</sup>さんを中心に中野陣屋・県庁記念館でつるしかざりの展示をしたところ、多くの方か



ら好評をいただき、趣味以上でやりたいという仲間が集まりました。現在では、12人のメンバーで活動しており、月に2回集まって、小山さんの指導の下に毎回違った種類の花や動物などのひなを作っています。

作ったかざりは市内各所からの依頼により展示を行っていて、首都圏でも銀座NAGANOで中野市のPRに活用されたことがあります。

また、年に1回、中野陣屋・県庁記念館で作品展を開催しており、今年はたくさんリングが箱に入っている作品やブドウ棚のようなかざりなど、従来の作品以外にも工夫を凝らした展示をしました。作品展と同時に行われるチャリティバザーの売上金では、デジタルピアノを購入し、各保育園へ寄贈しています。

私たちは、自分たちの作成したつるしかざりを見て喜んでくれた方々の言葉をエネルギーに、楽しみながら活動しています。

### ○市民の皆さんへ

来年の3月に中野陣屋・県庁記念館で作品展を開催します。色彩豊かな絹の布で作ったお地藏や果物、花、鳥などバラエティー溢れる作品は、布の柄によって、印象が大きく変わります。

また、ひな作りを体験できるコーナーも予定しておりますので、ぜひ、作品展にお越しいただき、つるしかざりの世界をお楽しみください。

## 広報クイズ

### ■今月のプレゼント

「つるしかざり」…2人

### 問題

18歳・19歳に投票権が認められたことで、中野市では新たに約何人が投票できるようになるでしょうか？

「約●●●人」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 6月27日(月)必着  
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 中野市で栽培されているシャクヤクの品種は約何種類あるでしょう？ 答え・・・「約40種類」

383-8614

中野市庶務課  
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・  
電話番号・世帯主

(住所記載不要)

# 市民リレー元気の輪

No.22

望月 誠さん  
からのご紹介



## ○自己紹介

飯山市から岩井に嫁いで、46年になります。当時は、エノキタケの栽培で忙しい毎日でした。平成15年からは、33年間続けたエノキタケの栽培をやめて、小規模経営ですがアスパラガスを中心に米や野菜、リンゴ、花など多品目の作物を生産し、自給自足をモットーに生活を送りながら、直売所へも出荷しています。

今は、子どもたちも自立し、夫と二人暮らしです。夫との共通の楽しみとして、牧ノ入の山にある畑に桜を植えています。現在、大勢の仲間やグループから協力していただき150種類ほど集めることができました。同時にアジサイ、スイセン、ラベンダーなども植えており、一



割田 はま子 さん (岩井)

年中いつでもお花見ができる場所、誰でも遊びに来てもらえる里山づくりを目指して、まだまだ作業継続中です。



▲牧ノ入の桜畑にて

## ○元気の秘訣

この半世紀で、仲間と共に体験し、学んだことは、農産加工、そば打ち、味噌作り、押し花、草木染などで、中でも20年ほど続けた手描き友禅染は、たくさんの作品を残すことができました。

大自然の中で、農に生き、友と語り、助け合い、仲間と共にいろいろなことにチャレンジする。これが私の元気の源です。

## ○おらほの自慢

岩井は野菜作りに適した土壌なので、キュウリやアスパラガスは甘くておいしいと評判です。昔は、競り市があったほど、市場が栄えていました。

また、岩井のお宮にある東屋の中には、二重俵の土俵が納まっていて、市の名所見学の場所にもなっています。

# 池田市長の

# わくわくレポート

vol. 33



若い人たちの政治参加に期待する

わが国の選挙権年齢が平成27年6月の法改正により20歳以上から18歳以上に引き下げられた。世界191の国・地域のうち、176の国・地域が選挙権年齢18歳以上であったことを考えると、わが国も世界標準になるといえることかと思う。時あたかもわが国は高齢化が進み、4人に1人が65歳以上である。経済を語る時、いわゆる生産年齢人口がこれからの人口減少、高齢化社会でよく話題に上る。経済を支える働く人口が減少するなかで、福祉や年金など社会保障を支える人口が減ることは、経済社会に大きな影響を及ぼすということから、生産性を高めることに加え、働く世代を増やすことが重要となってきた。まさに、一億総活躍社会を実現することによりわが国の経済力を維持確保しようという試みである。

さて、経済面から目を転じて地域社会の形成、まちづくりといった観点からみると、高齢化が進む中で、この社会構造は過渡的な構造であり、いつかは高齢社会から安定期に

移行すると思われるが、まちづくりは20年から30年かかるといわれるなかで、今の若い人たちが政治参加することにより、若い人たちの考えをもっと地域に取り込む必要があると考えるのは、異論のないことだと思う。

因みに中野市の人口構造(ピラミッド)をみると、2010年の生産年齢人口の比率は60.0%だったが、2040年では51.5%と8.5%ポイント減少するとの推計である。生産年齢人口は15歳から65歳の人口であり、選挙権年齢を語るときは近似値としか成りえないが、このまま人口動態が進むとすれば、今後一段と働き盛りの将来ある人たちの意見のウエイトが小さくなるということを示している。中野市の投票率は低いが、若い人たちに政治参加の意義を強く抱いていただき、参加することにより、自分たちの社会が変わるんだという手応えを持っていただくためにも、参加型の政策を展開することはもちろんのことではあるが、今回の選挙制度改革が未来に向けて、地域における政治風土や政治意識改革につながってほしいと思う次第である。